

2007年1月から2009年12月までの間に中央病院で子宮頸がんの手術が施行された患者さんに関する研究概要の一般公開

研究課題名 子宮頸がん再発診断における画像診断の役割

研究対象：2007年1月から2009年12月までの間に中央病院で子宮頸がんの手術が施行され、その後5年間経過観察された方を対象とします。

研究の概要：子宮頸がん治療後の経過観察方法に関しては統一された見解がない状態です。画像診断は、再発を疑った時の精査として行うべきであるという意見がある一方、実際には特に再発を疑わない経過観察でも画像検査が行われていることが多いのが現状です。子宮頸がん術後の方の経過を調べ、再発診断における画像診断が果たした役割を調べることによって、経過観察に画像診断が必要なかどうかを調べます。

研究の意義：子宮頸がん治療後の経過観察の方法には統一された見解がなく、各施設が独自の考え方に基づいて行われているのが現状です。

また、日本は他の国に比べて画像診断を用いることが非常に多いという現状もあります。

過去の子宮頸がん治療後の患者さんの経過を調べ、経過観察において画像診断を定期的に行うことに意味があるのかどうかを調べ、今後のより効率のよい経過観察の方法を探る手がかりにします。

目的：子宮頸がん治療後の経過観察に画像診断は必要なかどうかを調べる

方法：研究対象となる方々の経過をカルテを参照して調べます。

今回はカルテの記述や病理診断、検査結果、画像を再度見直すのみですので、対象となる方に新たな検査を行うことはありません。

個人情報保護に関する配慮：本研究では個人情報は連結可能匿名化され、個人が特定されることはありません。また、個人が特定されるような情報は一切公表しません。

この研究の対象者に該当する方で、ご自分の臨床情報、検査結果、病理結果、画像情報を使用しないで欲しいというご希望があれば、以下の連絡先までご相談ください。

研究代表者：国立がん研究センター中央病院放射線診断科 眞鍋知子

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒104-0045

国立がん研究センター中央病院 放射線診断科 眞鍋知子

TEL03-3542-2511(内線 5409) Fax 03-3547-5989